

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通 1階,2階)

事業所番号	2794000329		
法人名	株式会社ユーアイプラチナ		
事業所名	グループホームユーアイ緑丘		
所在地	大阪府豊中市西緑丘3-5-2		
自己評価作成日	令和2年4月6日	評価結果市町村受理日	令和2年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8		
訪問調査日	令和2年5月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は緑丘の住宅地にあり部屋の窓からは箕面の山々が見られ全面には緑丘新池公園があります。また隣接には大型スーパーイオンモールがあり日々の入居者様の買物、散歩のコースになっています。地域性を活かして校区で開催されるふれあいサロン、お食事会、地域住人の体育祭・文化祭、保育所との次世代交流、敬老会、地域公園の清掃など生活範囲を広げるためにも地域社会との触れ合いを積極的に支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体の(株)ユーアイプラチナは、豊中市の北の丘陵地に位置し、車で10分圏内に小規模多機能施設3か所、グループホーム1か所を開設し、互い助け合って高齢者介護に取り組んでいる。市の公園やショッピングモールが50m圏内で、小学校、認定こども園、自治会館が歩いて5、6分と、恵まれた立地条件下にあり、地域としっかり結びついた事業所となっている。認定こども園との交流も盛んに行っており、クリスマスには利用者の家族を招待して食事会を開催し、そこから家族同士の交流の輪が広まり、アットホームで家庭的な施設となっている。看護師2名を配置して、利用者の痰吸引、じょくそうの処置、排便調整等にあたっている。終末期看取りに対する職員研修を行い、過去10名の看取り経験がある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH理念はホーム玄関掲示板に掲示するとともに職員及び新規職員採用の際、GH理念を伝え職員全員で考えるようにしている。	開設時に作られた理念「地域と共に安心して生活できる環境づくり、心に寄り添うケア」を事業所の玄関や各フロアに掲げている。職員はミーティング等で再確認する機会を作り、取り組みの振り返りの起点としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(文化祭・体育祭・夏祭り・敬老会・クリスマス会、等)に入居者と一緒に参加している。保育所との世代間交流、近隣の公園の清掃、散歩、買物、美容院、等地域社会との交流をもつようになっている。	2年前に自治会に加入し、回覧板等で地域情報を得ている。地域行事(文化祭、夏祭り、敬老会)等に参加するとともに、事業所の行事(クリスマス会)には、地域の認定こども園の園児が参加し交流している。ボランティア(紙芝居、レクレーション)も受け入れ、社会福祉協議会主催の作品展には、絵画や手芸、刺繍等の利用者の作品を出展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	豊中北中部地域福祉ネットワーク会議、地域の施設間の交流、研修会その他活動をとおりて認知症・GHの状況・役目を積極的に語って支援の方法と理解を発信している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はおおむね2か月に1回開催している。入居者近況の報告、入退所状況、行事参加の報告等。出席者からの意見、助言はすぐに実践に繋げている。	運営推進会議は、ほぼ偶数月に年6回開催し、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会関係者、民生委員、利用者、家族の参加の下、事業所の直近の状況報告を行い、出席者より地域の一人暮らし高齢者の状況等の報告を受けている。今後、運営推進会議の議事録を家族に配布する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、ほぼ毎回市町村担当者に出席いただき現状を報告しアドバイス、情報提供を頂いている。	豊中市長寿社会政策課が開催する長寿フェアに参加したり、バザー時に職員が手伝っている。また運営推進会議の議事録を持参するなど協力関係を築き、集団指導の件等で市の窓口に出向いて、相談事があれば連携し解決している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット間は見守りは行方が自由に行き来できるようにしている。また職員にも常日頃から拘束の意識付けを周知徹底している。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催し、事例を検討している。身体拘束指針を作成し、研修も行っている。前回の調査では、車椅子ベルトとつなぎ服の使用が見受けられたが、現在は利用者も落ち着いたので廃止している。玄関や各ユニット間の施錠はなく、利用者は自由に行き来している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修等において高齢者虐待の防止について勉強し職員全員が虐待の意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見人制度について関係機関から情報収集を行い職員会議で語る機会をもうけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にグループホーム・居室等の見学をして頂きアセスメントをする。理念・方針・年間目標を説明し契約の際は十分に納得して頂ける様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常は電話で家族様と話せる機会を持つようにしている。運営推進会議・家族様の来訪時には意見を聞き、それらを運営に反映させて頂いている。	ほとんどの利用者が地元からの入居で、家族の面会も多い。家族からの要望で、飲み物(コーヒー)を利用者個別に提供したり、車椅子の利用者に歩行器を導入して、フロア間を自由に行き来出来るようにして、利用者、家族から喜ばれた事例がある。家族も参加するクリスマス会は事業所の一大イベントになっており、家族間交流が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・リーダーが常日頃から職員の意見は聞くように心掛けている。個人面談の場を設ける等、職員の仕事への意欲にも繋がるので出来るだけ意見を聞くようにし運営に反映している。	職員の全体会議が月1回、ユニット会議が月2回行われ、現場に即した意見、提案を聴取している。個人面談も行い、職員からシフトの事や入浴介助担当者の変更、買い物等について相談を受け、その都度柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として月1回各事業所の管理者が集まり管理者会議を行って職員が意欲をもって働ける様に職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員全員には月1回定期的な研修の場を設けている。外部研修にも個々の職員が積極的に参加できるようにしている。職員一人ひとりの力量に応じて研修資料を配布し日々の介護現場にてトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的開催の豊中北中部地域ネットワーク会議での活動を通じて同業者と交流の機会を設けている。また地域の施設サービス事業所と定期的な勉強会の場がある。管理者が同業者と情報交換し質の向上に繋げている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し信頼関係作りに努めている。入居後も利用者本位とし本人の意見を尊重し安心した生活の確保に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の意見や要望はささいな事でも耳を傾けるようにしています。本人の「安心した生活」のため家族様と一緒に考えて支えていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時本人、家族様よりアセスメントを行い出来ること、出来ないこと、好きな事、嫌いなことしてほしいこと、してほしくないことを把握し介護計画を作成し支援にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に買物にでかける、食事を一緒に作り一緒に食べる、家事を一緒にする等「個々の生活者」として接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会、外出は自由にさせていただいている。本人を支えるために家族様の協力をお願いして職員と家族様とが連携して本人を支えていく関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「当たり前の生活の継続」として本人がこれまで大切にされていた馴染みの生活を尊重し支援に努めている。	利用者は地元からの入居がほとんどで、小規模多機能施設の友人の訪問があったり、行きつけの理・美容室、喫茶店に行く利用者も多く、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係を職員は把握するように努めている。気の合う方と一緒に散歩に行くなど。孤立しそうな入居者へは職員と入居者が家族の様に关わるようにし支え合って支援にあたっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等の理由でサービスの利用が終了しても面会に行ったり家族様と連絡等により退所後の様子を聞くなど家族様への支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の要望、思いを把握し「申し送り」「フロッパーノート」で職員全員が情報を共有し支援しています。	入居契約時に自宅訪問して、利用者の趣味や好み、出来る事や出来ない事をアセスメントシートに記録し、今までの生活環境に近付けるように努めている。利用者の思いを職員が把握して、本人本位のケアに向けて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで本人、家族様より生活歴、現在の生活状況を細かく聞き取りを行い介護計画を作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活状況、意欲、認知症による周辺症状など現状の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で職員のそれぞれの意見を検討し介護計画の見直しを行っている。その際本人、家族、医師などの関係者の意見を反映して作成にあたっています。	カンファレンスを兼ねた毎月の職員会議や、月2回のフロア会議、モニタリングを基に、担当職員や計画作成者を中心に介護計画を話し合い、短期6か月、長期1年として作成している。利用者の状態や急変時にはその都度計画を見直し、現状に即した介護計画を作成している。家族には面会時に説明して了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の生活状況、気付きは個別記録に記録し職員全員が情報を共有して介護計画を見直しするとともに現介護場での実践に		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の代表者と複数の事業所の管理者で定期的な会議で情報交換するとともに既存のサービスに捉われない柔軟なサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区福祉の主催する行事に参加をしたり保育所との次世代交流をしている。地域の公園の清掃を入居者と一緒にするなど生きがいをもって安全で豊かな暮らしが出来るように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望をふまえて適切な医療が受けられるように支援しています。また月2回の協力医療機関の医師による往診を受けてもらっている。デンタルクリニックの往診もを受けてもらっている。	従来のかかりつけ医(眼科、皮膚科、精神科)への受診は、基本的に家族が同行しているが、必要時には職員が同行することもある。協力医療機関からは月2回内科、月4回歯科の訪問診療があり、希望者が受診している。2名の非常勤看護師は交代で勤務し、褥瘡や痰吸引、爪切り等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の暮らしの中で体調の変化があった場合は記録し看護師による看護、状況に応じてかかりつけ医に連絡を取り指示を仰いでいる。往診も柔軟に対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	常日頃から連携病院等には訪問したり連絡をしたり行き来がある。入院の際は病院関係者と情報交換に努め入院してからも病院へ小まめに足を運ぶようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化・終末期のケアの対応指針を説明のうえ家族から同意書を得るようにしている。医療や家族、職員との連携を密にして最大の支援が出来る体制を整えています。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し、入居契約時に対応について説明し、利用者や家族の意向を重視したケアが実践出来るように話し合っている。利用者の急変時には、医師、家族、事業所の3者で再度話し合いを行うなど、支援体制を整えている。過去に10名の看取りの実績がある。	急変時に行われる3者による話し合いを、事業所は文章化して保管しているが、利用者、家族に対しては書面での交付がない。今後は家族の意思を再確認し、事態に応じて意思統一を図る上でも、同意書を双方で保有する方向で検討する事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的な社内研修で緊急対応マニュアルについての意識を高めている。職員は救急救命講習にも定期的に参加をし実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防用設備等は定期的に点検を行っている。職員は災害対策について常に意識を持ち災害時は冷静に避難誘導が出来るように日頃から周知徹底をしている。	規定の年2回(1回は夜間想定)の消防訓練を実施している。浸水しない半地下倉庫に、食糧と水を3日分に備蓄している。安全な避難経路も確保しており、5分以内に駆け付けられる職員が5・6名いる。	災害時の避難経路上や避難した場所での利用者の見守りを、運営推進会議で自治会や地域の人をお願いするなど、地域の協力体制を築く事を期待する。また、規定以外のミニ訓練を繰り返して、全職員が有効な災害対策を体得する事を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し相手の心を思いやる話し方など対応の	接遇や人権研修を年に1回は行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに留意している。職員の強い言葉や対応が見られた時点で、個別にリーダーが注意を促している。居室への出入時はノックする、入浴やトイレ誘導には小声で耳元で話しかける、などの配慮がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心して生活して頂くために常に利用者本位で希望や思いを傾聴し本人の自己決定を尊重している。散歩、外出、入浴、散髪等自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活は一人ひとりのペースや好きなこと、したくても出来ないことを出来るように支援している。こちら側の都合での援助は出来る限りしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの洋服を家族様にお願いをし用意している。その人らしい身だしなみや、おしゃれを楽しんでもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食事を楽しむことが出来るように工夫をしている。「パンの日」「お寿司の日」をもうけたり、配膳や洗い物、後片付けは交代でしていただいている。家族様と外食に行かれたり職員と外食に出かけることもある。	通常は食材が業者からチルド状態で配達されるが、週2回は食材を止めて調理専門職員が買い出し、麺類やてんぷら等利用者の好みの物を調理している。イベント食、行事食や、開設祝い日には手料理の特別食を提供し、ホットプレートでのおやつ作りや、誕生日ケーキを手作りする楽しみもある。利用者は配膳や洗い物等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事は栄養バランスの摂れたものを提供している。又、体調や状態により個別の対応や本人の好物等状態に応じて提供している。水分摂取も確保できるように一人ひとりに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし口腔ケアの援助をしています。週に1回はデンタルの往診による検診、口腔ケアを実施しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄状態を把握し随時声かけをしトイレ誘導を支援している。出来るだけ排泄の自立が衰えない様に、また本人の体調や状態にあった支援を心掛けています。	排泄チェック表を基にトイレでの排泄支援を基本とし、布パンツにパッドで過ごしている利用者が多い。排便は看護師が調整し、なるべく浣腸等を使用せずに座薬等を利用して、自力で排便するように支援している。夜間は2・3時間置きに見廻っているが、転倒リスクのある利用者にはポータブルトイレを使用して貰い、睡眠を重視して本人本位に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便の状態を記録し把握するようにしています。水分摂取、散歩、食事等便秘予防の工夫をしている。看護師、主治医の協力のもと予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や状態に合わせて入浴を楽しめる様に支援している。特に曜日、時間は決めていません。「お湯が沸きましたよ」など親しみやすい声かけをしています。暖簾をかけたり温泉の気分を演出するなど工夫をしている。	入浴は週3回を基本としているが、体調やその日の気分で嫌がる利用者には、日時や回数を替えたりシャワー浴にするなど、柔軟に対応している。楽しむ工夫として、入口に暖簾をかけ、浴室に日本地図を貼って生まれた場所を確認するなど会話を楽しんでいる。季節の柚子湯や菖蒲湯で気分転換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はフロアのソファ等で自由にくつろいで頂いている。お昼寝も自由にしてもらっている。移動が困難な入居者は居室に誘導し休息をとってもらっている。安心して眠れるように照明、室温、湿度等気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に薬剤師が入居者の薬を届けにくるので、その時に説明を受け職員は用量等を把握し安全に服薬できるように支援している。服薬による症状の変化も注意深く観察し変化に気づくように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味が自由に出来る環境作りをしています。日々の家事仕事で役割を持つことで張り合いや喜びを持って過ごせるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの心身の状態や希望にそって散歩や外出に出かけている。四季折々の行事等には地域の人々の協力のもと普段行けない所へにも積極的に支援し出かけて頂くようにしています。	事業所の前が公園という利点を活かし、介護度が4・5の車椅子の利用者も、日常的に散歩に出かけている。近くの認定保育園からの誘いで、園児の唄を聞くなどの交流がある。季節によって、法人の車で紅葉や桜見物に弁当持参で遠出し、利用者に喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や今までの習慣を大切にして家族の了承のもとで少額の現金を持参してもらっている入居者もある。職員と一緒に買物に行かれたり外出時に使える支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人と希望があれば電話や手紙のやり取りが出来るよう積極的に支援をしている。手紙が届いたら本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダー、時計は入居者が目につきやすい様に要所要所にかけている。お風呂、トイレはわかりやすく目印をつけています。ホールの壁に入居者と一緒で作成した季節ごとの作品を飾っている。玄関、リビングには季節ごとの花を飾ったりして居心地良く過ごせるような工夫をしています。	共用のリビングのテレビの前には、4人がけと1人がけのソファが配置され、利用者は思い思いに気の合った人と自由に会話を楽しんでいる。時計とカレンダーがセットで、どの角度からでも見やすいように配置され、壁には職員と共作の季節の壁飾りや、利用者が描いた絵画が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には一人でくつろげることができるスペースがある。ベランダに椅子を置き天気の良い日は入居者同士が日向ぼっこをしながら話せるスペースがある。ユニット間を自由に行き来し気の合った者同士が過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染の家具や額等、持参されている入居者もおられる。壁には本人の「誕生日会」や参加行事の写真を貼ったり花を飾ったりしていごち良く過ごせる工夫をしている。	居室にはクローゼット、洗面台、ベッド、ベビーダンス、防災カーテンが備え付けられている。利用者は、タンスやテレビ、趣味の絵画等、家族と相談して使い馴れた物を持ち込んで、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダー、時計を多く配置し日時が解りやすいようにしている。居室のドアに表札を掛けている。廊下にトイレ、風呂場への矢印を付けて間違わない様に工夫しています。		